

3 力の伝達が明快な軸組

屋根または床上に発生した地震時の慣性力は、床面に張られた合板等を介して各構面の軸組に伝達され、筋かい等を経て土台、アンカーボルト、基礎へと伝えられます。建物の主要な構面に配される軸組は、以下の点に配慮して力の伝達メカニズムを明快にすることにより、耐震性が確保できます。

- ① 屋根面には小屋組筋かいを配し、2階耐力壁への地震力の伝達を図る。
- ② 下屋等の水平構面は、構造用合板等で固め、水平力への伝達を図る。
- ③ 耐力壁は上下階で連続して配置し、筋かいもスムーズな応力伝達となる方向に配する。
- ④ 下屋に接する1階構面（図-2における③列）には、耐力壁を配し、かつ、直下には布基礎を配置する。
- ⑤ 耐力壁の直下の土台には両側の柱から20cm以内にアンカーボルトを配する。

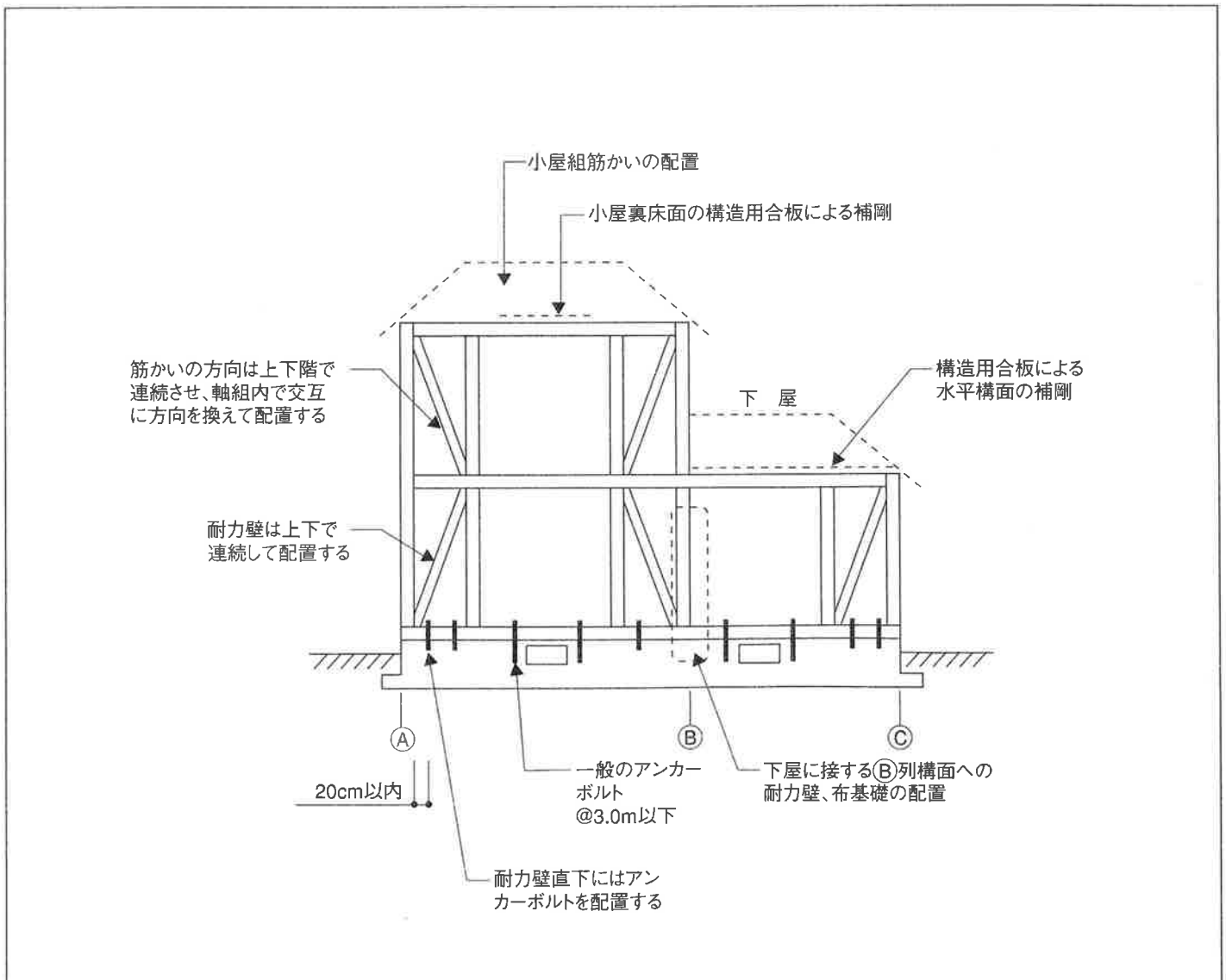


図-2 応力伝達が明快な軸組